

令和3年度 東京都立田園調布高等学校 学校経営報告

3年度の経営目標	実施内容等
1 学校経営・組織体制	<p>コロナ禍でも学びを止めない取組を行うことが出来た。また、可能な限りの学校行事開催、部活動の継続を行うことができた。</p> <p>① 罹患者は生徒だけでなく、教職員にも発生したが、感染症対策を十分に取り、校内での濃厚接触と指定される事例はほとんどなかった。</p> <p>② ガイドライン内で、体育祭、文化祭、修学旅行を実施することが出来た。</p> <p>③ リアルとオンラインを組み合わせたハイブリッド授業を実施した。MSTeams を活用した健康チェック、施設予約、連絡システムなど様々な開発が行われ、利活用が出来た。</p> <p>④ サービスの厳正について、職員研修を行うなどして、事故0を達成した。</p> <p>⑤ 研究紀要を復活させ、発行することが出来た。</p>
2 学習指導	<p>第二期・進学指導研究校、理数研究校の指定を受け、学習指導力、授業力の向上に組織的・計画的に取り組むと共に、新学習指導要領の実施に向けての観点別評価の研究に取り組んだ。</p> <p>① 定期テスト、課題テストは全て共通問題とすることが出来た。観点別評価についてはいくつかの教科で先進的に研究を行った。定期考査結果を入力し、小問ごとの分析を行う教科があり、他教科にも広まっている。</p> <p>② 生徒による授業評価を年間2回実施し、評価結果を授業改善に生かした。</p> <p>③ 外部模試分析会の実施を通して、学習指導の成果検証を行った。Compass やFine システムの利活用研修会を行い、担任、教科担当からエビデンスに基づいた指導助言を生徒に行う事が出来るようになってきている。</p> <p>④ 夏季休業日中の講習、土曜講習、センター試験直前講習を計画的に実施し、大学入試を意図した学力向上を図った。</p> <p>⑤ 外部組織フォーラム 21 等の協力をいただき、総合的な探究の時間の充実を図ることが出来た。</p> <p>⑥ ステディサプリを1学年全員に導入し、個別最適化の学習指導の研究を行った。各教科での復習等に活用を増やしていく。</p> <p>⑦ 理数研究校として、東京サイエンスフェアで発表するなどの取組が出来た。</p>
3 生活指導	<p>年間を通して特別指導は0件であった。自傷行為、生命に関する案件が発生したことは非常に重く受け止めなければならない。事故後の対応は教職員が一丸となり対応することが出来た事は評価できる。外部組織との連携も、管理職を中心に的確に行うことが出来た。</p> <p>① 教育相談委員会、いじめ防止委員会を毎月開催し生徒の状況の把握を、スクールカウンセラーを交えて実施した。これ以外にも年間3回のいじめ調査、年末の体罰調査等で生徒の状況把握を的確に行うことが出来た。</p> <p>② 専門医派遣事業の取組として、精神科医による心の健康教室、産婦人科医による思春期講座を開催し、心身の健康の保持増進に努めた。</p> <p>③ 1年生を対象としたSNSの適切な利用及び薬物乱用防止講座を、所轄警察署と連携し実施した。</p> <p>⑤ 年間3回の避難訓練に加え、地域と連携した防災訓練に1年生全員が参加し実施することが出来た。</p> <p>⑥ 年間を通じた遅刻指導を継続し生活習慣の確立が出来た。</p> <p>⑦ 教職員を対象とした校内研修を年間3回実施し、人権尊重の精神及びコンプライアンスの徹底を図るとともに、体罰・暴言等の防止に向けた意識啓発に努めた。</p>

<p>4 進路指導</p>	<p>「田高進路プロジェクト」に基づき、進路指導部、学年、教科が協力し、進路指導を計画的に実施することが出来た。</p> <p>① 第二期・進学指導研究校への訪問指導では、模試分析会について高く評価をいただいた。各教科が分析し今後の対応を検討する方式を継続するとともに、生徒への指導の結果の追跡調査・分析まで行えるよう準備をおこなった。</p> <p>② 進路指導部を中心にアドバンスクラスの指導法を取りまとめることが出来た。</p> <p>③ 予備校の講師を招き進学情報を3年生には10月に2年生には2月に提供することが出来た。</p> <p>④ 1, 2年生対象に大学出張講義を企画しオンラインと対面を合わせて14大学の協力を得て実施することが出来た。</p> <p>⑤ 模擬試験の学校としての実施について進路指導部が各学年の意見を取りまとめ、次年度以降の継続的な実施を決定することが出来た。</p> <p>⑥ 夏季集中型学力向上講習(1・2年生)、3学年の夏期講習等を進路指導部がとりまとめ、各教科と連携して効果的な学習指導を行うことが出来た。</p> <p>⑦ 保護者会等での進路情報の提供を行うことが出来た。進路だより等による情報提供の充実は今後の課題である。</p>
<p>5 特別活動、部活動</p>	<p>感染拡大防止に務めガイドラインの中で可能な限りの活動を行うことが出来た。校内でのクラスター発生は無かった。</p> <p>① 部活動についてはガイドラインに従い活動を行うことが出来た。宿泊を伴う活動は全て中止となった。</p> <p>② エンジョイスports・プロジェクト・モデル校の最終報告動画を作成し東京都のWebページで公開し広く本校の成果発表を行った。</p> <p>③ 合唱祭は感染拡大の時期と重なり、実施できなかった。</p> <p>④ ビブリオバトルを12月に実施し、読書活動を推進するとともに、表現力やプレゼンテーション能力の向上に努めた。</p> <p>⑤ 生徒会役員と校長との座談会を開催することが出来た。今後継続的な開催が必要である。</p>
<p>6 募集・広報活動</p>	<p>推薦入試、前期入試、後期入試共に例年程度の応募があった。都立高校全体の応募者が減少する中、入学希望者を確保できていると考える。コロナ禍で学校見学会は一斉開催ではなく、教室でビデオでの説明となった。</p> <p>① 学校説明会、外部での説明会はほぼ予約で埋まった。学校説明会はビデオをWebページでも公開し、各回による説明の違いを無くすことが出来た。</p> <p>② Webページは新しいシステムへの移行が完了し、新たなコンテンツも作成している。年間更新回数は180回を超え、コロナ禍ではあるが情報発信が出来た。</p> <p>③ 近隣の中学校に加え、進学指導塾400校近くに学校案内を送付した。さらに、夏期休業中に校長が200校近くの進学指導塾を訪問して、本校のPR活動を行った。</p> <p>④ 中学校への学校説明会にも参加し、田園調布高校と中学校をオンラインでつなげるなど、様々な工夫を行いPRに務めた</p>
<p>令和3年度の主な学校説明会等の来校者数</p>	
<p>① 第1回学校見学会(7.21)…………… 560名</p> <p>③ 城南地区合同説明会(10.3) ……233名</p> <p>⑤ 都立高校等合同説明会(10.31) ……61名</p> <p>⑦ 第3回学校説明会(1.8)……………209名</p>	<p>② 第2回学校見学会(8.21) …… 329名</p> <p>④ 第1回学校説明会(10.16) ……512名</p> <p>⑥ 第2回学校説明会(11.13) ……487名</p> <p>⑧ 第4回学校説明会(3.2) …… 20名</p>

令和3年度の数値目標	
<p>① 大学現役合格者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大 10名以上</li> <li>・難関私大（早慶上理） 10名以上</li> <li>・私大（GMARCH） 50名以上</li> </ul> <p>② 生徒による授業評価における学習指導「指導方法、指導内容の工夫」について、肯定的評価 90%以上</p> <p>③ 生徒の授業以外の学習時間の目安を、1年生2時間、2年生3時間、3年生4時間として、各学年の達成目標 30%以上</p> <p>④ 12月時点での1・2年生の部活動加入率 90%</p> <p>⑤ 入学者選抜応募倍率を、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦 2.5倍以上</li> <li>・分割前期 1.8倍以上</li> </ul> <p>とする。</p> <p>⑥ 東京都体力・運動能力調査の体力合計点の平均値を、東京都平均以上とする。</p>	<p>① 大学現役合格者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大（鹿児島・横浜国立他） 7名</li> <li>・難関私大（早慶上理） 11名</li> <li>・私大（GMARCH） 55名</li> </ul> <p>② 肯定的評価 77%</p> <p>③ 達成率 （1年生:16.2%, 2年生:3.5%, 3年生:24.2%）</p> <p>④ 12月時点での1・2年生の部活動加入率 78%</p> <p>⑤ 入学者選抜応募倍率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦 2.6倍</li> <li>・分割前期 1.9倍</li> <li>・分割後期 2.3倍</li> </ul> <p>⑥ 東京都体力・運動能力調査の体力合計点の平均値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男子 50.83（東京都平均 50.8）</li> <li>・女子 51.13（東京都平均 50.7）</li> </ul>
翌年度以降の課題と改善策	
<p>○ コロナ禍での学校行事、部活動等を実施して行く工夫が必要である。感染防止に務め全日制普通科高校としての役割をしっかりと果たし、生徒の学校満足度を向上する必要がある。</p> <p>○ 教職員のライフワークバランスを考え、土曜授業実施による負荷の軽減（振休日を取れる時間割の作成）とともに、長時間勤務を減らすよう改善をする必要がある。</p> <p>○ 観点別評価の実施、ICT 機器を使った個別最適化された授業の実施。全ての教員による授業力向上のための取組を行う必要がある。</p> <p>○ 生徒に寄り添った生徒指導、部機関と連携した生徒のメンタルヘルスケアの充実を通して、生命尊重の教育の実践を行う必要がある。</p> <p>○ 18歳成人を見据えた、規律ある学校生活の実践が必要である。</p> <p>○ 進学指導研究校の指定を生かし他校の授業見学や、職員研修、模試分析からの進路指導などを系統的に行う必要がある。担任だけでなく、全ての教科の教員がエビデンスに基づいた進路指導が出来るようになることが必要である。</p> <p>○ 学校行事、部活動を生徒中心に復活させ、新しい学校行事を生徒自身が作っていくというやりがいを感じるような指導が必要である。生徒自らが田園調布高校の学校行事、部活動を作り上げるという気持ちになるような指導を教職員が行う必要がある。</p> <p>○ 学校案内、Web ページの充実はもちろん、PR 活動を出来る限り行い、応募倍率をさらに向上させる必要がある。また、後期募集での人数確保の為に戦略も今後検討する必要がある。</p> <p>○ 教職員が田園調布高校を愛し、生徒一人一人の声に真摯に耳を傾け、心のこもった温かい指導を充実させることが必要である。生徒が教員の指示を待つのではなく自分で考えることが出来るように指導し、さらに、教員は上司からの指示待ちになるのではなく、自らが学校を作り上げる提案が出来る職員の育成を目指すことが必要である。</p> <p>○ 令和4年度も、年度末に一年間の取組をまとめた紀要を作成し、学校としての活動の記録をしっかりと残せるよう、管理職は生徒・教職員の意見を聞きながら、真摯に学校運営を行う事が必要である。</p>	